

# 1 講 評

## ①第三者評価機関名

社会福祉法人茨城県社会福祉協議会

## ②施設名等

名称	: 誉田養徳園	種別	: 児童養護施設
施設長氏名	: 椿 忠彦	定員	: 42名
所在地	: 茨城県常陸太田市瑞竜町1425	TEL	: 0294-72-3415

## ③実施調査日

平成26年6月16日 ~ 平成27年3月16日

## ④総評

### ◇特に評価が高い点

地域に密着して成長してきた経緯があり、地域との関わりが深く、地域における子どもの活動や福祉を推進するまとめ役として活動をしている。

養育理念である早起き、正直、働きの精神を中心に「子どもの利益」を目指す養育が行なわれている。

分園型自活訓練事業のノウハウを基に地域小規模児童養護施設に変更され、本園と分園の機能を活用しながら連携の取れた支援が行なわれている。

施設長は、子どもと行う動物の世話などを通じて、一人ひとりと接する機会を多くし、その時々で見せる子どもの表情や言動の中から本音を見出し、理解を深めている。

学校との連携を密にして子どもと一緒に護る協力関係を築き、強引な引き取りに際しても適切な対応をしてもらうなど、協力関係を築いている。

広い敷地の中で一輪車などの遊具を使って遊んだり、動物に餌を与えたりするなど、子ども達は職員の見守りの中で体を動かし、生き生きと過ごしている。

高校生の子どもには、制度を最大限利用して金銭面での支援をしながら、運転免許取得を積極的に勧めたり、在学中に取れる資格取得を推奨している。

地域との協力関係が密であり、児童虐待防止のイベントを市民交流センターで多くのボランティアに支えられながら主催し、施設の有する専門的知識を広く市民に伝える地域貢献活動を行っている。

### ◇改善が求められる点

個別の処遇内容が充実しており、子ども一人ひとりを大切にする姿勢は評価されるところではあるが、標準的な実施方法や、アセスメント表を用いたサービスの目安や基準づくりの視点をもって支援することを期待します。

支援計画は、それぞれの課題の解決に向けた取り組みを示すことも必要と思われるが、子どもの長所を伸ばしていくことなども加え、子どもと一緒に作成することを期待します。

職員については、入職時の選考の際に子どもの見本となるべき人柄や倫理観などを持ち合わせていることを基準に採用しているが、職員一人ひとりに付いての目標管理や人事考課、今後の研修や資格取得などの教育・研修計画などを整備して、運用することを期待します。

## ⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

今回初めて第三者評価を受審いただきましたが、施設の運営状況について客観的に知る良い機会となりました。各項目についての職員の自己評価や利用者である子どもたちの意向や自由な意見を聞くことができたことは、大変良かったと思います。

また、各マニュアルの整備不足、アセスメントや支援計画・職員の資質向上・人事管理・情報公開等に関する当園の課題について改善のご指摘を受けたことは、今後の施設運営を適切に行っていく上で大変貴重な経験であったと思います。次の受審の機会までに施設一丸となって少しでも改善が図れるよう、今後努力していきたいと考えております。

## ⑥第三者評価結果(別紙)

(別紙)

## 第三者評価結果

### 1 養育支援

(1)養育・支援の基本	第三者評価結果
① 子どもの存在そのものを認め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、子どもを理解している。	a
② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築するを通してなされるよう養育・支援している。	a
③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子どもが自ら判断し行動することを保証している。	a
④ 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
⑤ 秩序ある生活を通して、基本的生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>職員は子どもたちの表現をしっかり受け止め、生活の中で学ぶ子どもの力を信じ、見守る姿勢を日々の養育の中で取り組んでいる。</p> <p>施設においては、広い園庭や付随する遊具、共有図書の実充の他、学習室へのパソコンの導入や学習ボランティアの活用など、子どもたちの必要とする学びや遊びの場が充実しているが、地域小規模養護施設においては、遊具や学習のためのパソコンなどの教材を充実させることを期待します。</p>	
(2)食生活	第三者評価結果
① 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a
② 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
③ 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b
(3)衣生活	
① 衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。	a
② 子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
(4)住生活	
① 居室等施設全体がきれいに整美されている。	a
② 子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>地域小規模養護施設においては、子どもたちが食事を作ることのできる環境にあり、将来に向けた実践がされている。</p> <p>衣類については、共同で購入する物と個別に購入する物があるが、子どもの意向や適切な自己表現をサポートする形で支給や購入が検討され、担当者子どもとの関わりの中で実施している。</p> <p>居室については、子どもたちが整理・整頓することを基本とし、適宜、職員が指導をしている。</p> <p>年齢に応じて個室としているほか、複数のリビングが設置され、ソファ等置いて寛げる場所になっている。</p> <p>施設の食生活においては、栄養ポスター等の掲示があり、学校のイメージを受けます。家庭的な環境への取り組みとして、テーブルの配置やパーティションの工夫などにより、小さな単位での食卓の雰囲気づくりやクロスなどで食事スペースとしての環境づくりを期待します。</p> <p>食育については、年齢に応じた食育計画の立案やバランスのとれた食品選択を実践できるアプローチを期待します。</p>	

(5)健康と安全	第三者評価結果
① 発達段階に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理ができるよう支援している。	b
② 医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	a
(6)性に関する教育	
① 子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 健康管理については、発達段階に応じて自己管理ができるように支援をしている。医療機関とは適宜連携が図られ、緊急時の受診や健康管理に反映している。体の不思議新聞を2ヶ月に1回発行し、子どもが自然に生(性)について正しい知識を得られるようにしている。健康状態の把握については、チェック票などを用いて個別の健康状態を観察できるような体制を整備することを期待します。	

(7)自己領域の確保	第三者評価結果
① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a
② 成長の記録(アルバム)が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a
(8)主体性、自律性を尊重した日常生活	
① 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している。	a
② 主体的に余暇を過ごすことができるよう支援している。	a
③ 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 子どもたちは、個別の持ち物について自己管理ができるよう指導し、玩具や学習用品などは一部を除いて個人所有のとなっている。アルバムにはコメント等が加えられ、子どもの要請に合わせていつでも閲覧することができるようになっている。子どもたちの余暇や学校の休みの過ごし方については、一定のルールはあるが、要件により緩和するなど、弾力的に運用をしている。金銭管理については、小遣い帳の記載を支援するなど、各自が使用した物について振り返りができるように指導している。	

(9)学習・進学支援、進路支援等	第三者評価結果
① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a
② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
③ 職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
(特に評価が高い点、改善が求められる点) 学習室や子ども用のパソコン、共有図書などが整備がされているほか、年齢に応じた通塾、学習ボランティアを活用しているが、地域小規模養護施設においては、遊具や学習のためのパソコンなどの教材の充実が求められる。進路については情報を提供するとともに、保護者や他機関を交えた個別の面談など、様々なアプローチの中で自己選択ができるように支援をしている。高校生には車の免許取得や在学中に取得できる資格などを勧め、金銭面でもさまざまな支援をしている。学校による職場体験や個人によるアルバイトの支援の他に、職場体験を独自に開発するなどの取り組みに期待します。	

(10) 行動上の問題及び問題状況への対応	第三者評価結果
① 子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に、行動上の問題及び問題状況に適切に対応している。	a
② 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	a
(11) 心理的ケア	
① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>職員が互いを尊重しあう姿勢で養育に取り組むことにより、子どもの模範となれるようチームワークを大切に養育している。</p> <p>子どもの間には争いごとがあることを前提にして常に注意して見守っており、個別に言い分を聞いたり、様子がわからない場合は強い指導をしない等のが職員で共有している。</p> <p>引き取りに関しては児童相談所との情報交換を基に周知をしている。</p> <p>心理士を中心とした心理ケアを実施し、担当職員だけではカバーできない面を、必要に応じて支援ができる体制となっており、職員も企業が後援・主催する専門性の高い研修を受講して、施設全体で心理的支援ができるようにしている。</p>	

(12) 養育の継続性とアフターケア	第三者評価結果
① 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	a
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	a
③ できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	a
④ 子どもが安定した社会生活を送ることができるよう退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>措置変更については、乳児院などの場合には事前の訪問が計画・実施され、子どもの生活環境の急激な変化への配慮をしている。</p> <p>児童相談所からの受け入れについては、事前に担当となる職員が児童相談所から聞き取りが行なわれるほか、入所時の不足品の購入などを担当職員と一緒に買いに行くなど、早期に馴染の関係を構築できるように配慮をしている。</p> <p>退所した子どもに対する支援には難しい面もあるが、虐待後の復帰については意識して頻繁に訪問したり、退所から6ヶ月後に最低1回は訪問して様子を確認している。</p>	

## 2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者評価結果
① 児童相談所や家族の住む市町村と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	a
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	a
(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>家族支援へは児童相談所の介入も必要なため、積極的な対応とまではいえないが、ファミリーソーシャルワーカーを中心に運動会や各種行事等への参加を促すなど、保護者と子どもとの関係構築に取り組んでいる。</p> <p>面会や外出を積極的に進めており、一時帰宅の実施や面会の困難な子どもには「日曜の家」を利用するなど、家族的な関わりができるように支援をしている。</p> <p>保護者の施設内宿泊を伴う復帰支援など、発展的な取り組みを期待します。</p>	

### 3 自立支援計画、記録

(1)アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者評価結果
① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	b
② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	b
③ 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	b
(2)子どもの養育・支援に関する適切な記録	
① 子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	b
② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	b
③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>子ども一人ひとりと話し合って自立支援計画を作成し、定期的な処遇会議で計画の分析や検討をし、評価や見直しをしている。</p> <p>年齢に応じた成長や発達、子どもの長所などを含む統一したアセスメント様式を作成することを期待します。</p> <p>日々の記録は、アセスメントや自立支援計画へ反映させる必要があり、課題となる事項を中心に記載される傾向が見受けられる。退所後に子どもや保護者が記録を閲覧することを考え、プラス面も大切に記載するなど、成長記録の充実に期待します。</p>	

### 4 権利擁護

(1)子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者評価結果
① 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	b
② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b
③ 子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a
④ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	c
⑤ 子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a
(2)子どもの意向への配慮	
① 子どもの意向を配慮する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	b
② 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>宗教基盤を持つ法人による運営ではあるが、子どもたちへの信教の自由については確保されている。</p> <p>養育目標を明確にし、各学期末や年度末に子どもと一緒に話し合い、検証をしている。</p> <p>養育の実践を通して子どもの最善の利益を追い求める姿勢は共有されているが、職員が共通理解をするためにマニュアル等を整備することを期待します。</p> <p>生活日課の改善や変更については、子ども会議等で話し合っているが、季節や事象ごとに具体的な変更や修正が行われることを期待します。</p>	

(3)入所時の説明等	第三者評価結果
① 子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	b
② 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
③ 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	a
(4)権利についての説明	
① 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
(5)子どもが意見や苦情を述べやすい環境	
① 子どもが相談したり意見を述べたりしたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	b
② 苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	b
③ 子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	c
(6)被措置児童等虐待対応	
① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
② 子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b
(7)他者の尊重	
① 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>入所時には、子どもと職員で歓迎会を開催し、全員で親しみを込めて向かえ入れるなど、不安なく施設で生活ができるよう取り組んでいる。</p> <p>今年度の重点目標として「暴力をなくす・境界線の尊重」を挙げ、子どもへの暴力防止に取り組んでいる。</p> <p>子どもからの苦情や意見に対して、対応していこうという姿勢や体制があるので、現行の体制の点検を兼ね、マニュアルの形にまとめられることを期待します。</p>	

## 5 事故防止と安全対策

(1)事故防止と安全対策	第三者評価結果
① 事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	a
② 災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a
③ 子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>震災の経験を活かした備蓄の確保や地域とのつながりがで、協力体制を構築している。</p> <p>外部研修を通して事例の共有や課題のある事例を検討している。</p> <p>自治会に加入しており、地域の中で安全に過ごせるようにしたり、施設においては防犯カメラを設置したり、警備会社と提携するなど、子どもの安全確保に努めている。</p> <p>地域連携の取り組みが職員一人ひとりのレベルの向上に波及することを期待します。</p>	

## 6 関係機関連携・地域支援

(1)関係機関等の連携	第三者評価結果
① 施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a
② 児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
③ 幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など子どもが通う学校と連携を密にしている。	a
(2)地域との交流	
① 子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	a
② 施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	a
③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	b
(3)地域支援	
① 地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	b
② 地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	b
<b>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</b>	
<p>ボランティアや施設開放については、積極的な受け入れを明示したうえで、慎重に取り組みされており、子どもたちの生活や学習環境の向上に役立っている。</p> <p>学校を中心として連携は密に行われており、普段からの行き来や電話による相談、報告を互いに行える関係を築いている。特に、特別支援学校には頻繁に訪問する機会もあり、教員との連携が図られている。</p> <p>地域の子ども会や学校のPTAの役員を引き受けたり、地元町内の夏祭りでは事務局員として協力するなど、地域との交流を深めている。</p> <p>年1回わいわい親子フェスティバルを主催し、地域住民や関連機関等と連携して子ども虐待防止に寄与している</p> <p>児童相談所などの行政との関係は、定期的な報告や課題発生時の報告等であり、行政機関が機能を十分に発揮できるアプローチを今後も継続して実践されることを期待します。</p> <p>ボランティアの受け入れマニュアルや施設開放についての規程整備などに取り組むことを期待します。</p> <p>フェスティバルを活用して地域福祉ニーズを把握し、さらに地域の子育て支援事業に寄与されることを期待します。</p>	

## 7 職員の資質向上

(1)職員の資質向上	第三者評価結果
① 組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	c
② 職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	c
③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	c
④ スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	b
<b>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</b>	
<p>職員教育や研修に付いては、随時送られてくる案内や外部の年間研修などに職員を派遣している。参加者による伝達研修も実践している。</p> <p>個別のキャリアアップのイメージと施設として求める職員像をリンクさせる個別の職員計画を作成し、キャリア形成における実践と振り返りを伴った良循環サイクルが構築されることを期待します。</p> <p>施設長や心理士、ファミリーソーシャルワーカーなどに何時でも相談ができる体制ができており、職員それぞれが課題を抱え込まず、援助技術の向上を図りながら養育・支援ができるよう支援しているが、スーパーバイズが体系的に示されていないので、工夫することを期待します。</p>	

## 8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知	第三者評価結果
① 法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a
② 法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a
③ 運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
④ 運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定	
① 施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	b
② 各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	b
③ 事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	b
④ 事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
⑤ 事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>中・長期計画を家庭的養護推進計画として作成している。            施設の運営理念や基本方針は明示されているが、職員や子ども、保護者への周知の方法を工夫することを期待します。            今後の行政の動向を見据えながらも年度計画への反映や、計画にそった事業運営が行われることを期待します。</p>	

(3) 施設長の責任とリーダーシップ	第三者評価結果
① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	a
② 施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	a
③ 施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	a
④ 施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	a
(4) 経営状況の把握	
① 施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	a
② 運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	a
③ 外部監査(外部の専門家による監査)を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>施設長は、施設職員として経験も長いことから職員の信頼も厚く、子どもたちとの関係も良好に保ち、これまでも施設運営に関してきた経験と知識を踏まえ、リーダーシップを発揮している。            施設長自らが積極的に研修に参加し、自らの考えや法令等の情報を職員に伝えるとともに、常に職員へも意見を求め、改善のための取り組みをしている。            公認会計士などの外部監査を取り入れ、客観的な視点を踏まえた運営改善に期待します。</p>	



(5)人事管理の体制整備	第三者評価結果
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	b
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	c
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	c
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	a

(6)実習生の受入れ	第三者評価結果
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	b

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

実習生の受け入れにおいては、担当職員を決めて対応をしている。福利厚生センターへの加入など、職員の福利厚生に配慮をしている。人事管理については、教育・研修プランや人事考課が適切に行われることを期待します。資格取得に合わせた受け入れプログラムを充実させ、実習生の効果的学習を支援する取り組みに期待します。

(7)標準的な実施方法の確立	第三者評価結果
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	b
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	c

(8)評価と改善の取組	第三者評価結果
① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	a
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	c

(特に評価が高い点、改善が求められる点)

今回の受審を機会として、毎年自己評価に取り組み、評価結果の分析・改善を通して、職員の養育の取り組みや業務改善に対する意識を高められることを期待します。養育の場面では様々な取り組みを実践しているが、各種業務に関する平準化や文書化が重要であることを意識した取り組みに期待します。